２７．７．３０
杉並区広報課

トランスボックスが鮮やかに変身

30 日、高円寺駅周辺のトランスボックス（地上機器）3 基に、高円寺の夏の風物詩である「阿波おどり」をモチーフにしたラッピングが施されました。この取組みは、落書き防止とまちの美観向上、地域資源としての新たな賑わいの創出が目的です。

昭和 32 年に始まった「東京高円寺阿波おどり」は、今年は 8 月 29 日・30 日の 2 日間の開催で、1 万人の踊り手と 100 万人の観客を見込んでいます。この一大イベントまで、1 カ月となった本日 30 日、高円寺駅周辺に点在するトランスボックス 3 基へのラッピング設置工事が行われました。

トランスボックスは、電力会社が管理している電線類を地中化するための箱型の設備です。区が、平成 27 年 2 月に、高円寺駅周辺に設置されている区道上の 60 基のトランスボックスを調査したところ、18 基への落書きが確認されました。落書きはまちの景観を損ね、放置しておくと、さらなる落書きの被害や他の犯罪を誘発する可能性もあることから未然に防ぐ必要があります。

高円寺の地元からも、他の街でトランスボックスを活用した事例があるように、高円寺でもトランスボックスを活用してみてはとの声があがり、区と特定非営利法人東京高円寺阿波おどり振興協会が連携し、地元高円寺で活躍するデザイナー3 名の協力を得ました。

阿波おどり振興協会の冨澤武幸事務局長は、「今後、電線の地中化は進みトランスボックスは増えます。トランスボックスをまちの情報発信のキャンバスと捉え、将来的には全国のデザイナーに門戸を広げ発表の場として提供するとともに、高円寺の阿波おどりやまちの魅力を知ってもらう機会になれば有り難い」と話していました。ラッピングは、3～5 年の耐久性があり、すでに導入された新宿区歌舞伎町でも、落書きをされたケースはほとんどなく、大きな効果が期待できます。また、モニュメントなどと違って、設置後も一定期間で更新できることなどのメリットがあります。

［問い合わせ先］　都市整備部まちづくり推進課：3312－2111 内線 3381